

認知症不安に寄り添う

医師講演、周囲の理解訴え

宇都宮

認知症の理解や啓発を目的とした講演会「とちぎオレンジガイダンス」が24日、宇都宮市宿郷5丁目のベルヴィ宇都宮で開かれ、那須赤十字病院の伊藤雅史脳神経内科部長が「もの忘れ外来と医療現場からみる認知症について」と題して講演した。

同病院は2020年に、もの忘れ外来を設置した。創設から現在の運営にまで関わる伊藤部長は「物忘れの原因を調べて病名をはっきりさせる場所」と役割を説明。「(病状に)適応すれば薬も処方するが、現状

で認知症を治せる薬はない。患者さんや家族と一緒に悩み、生活や介護のアドバイスをしている」と話した。

認知症との向き合い方については「主症状は忘れっ

ぽさ。『何回言ったら分かるの』というのは(患者にとつて)無理難題」とし、周囲が不安に寄り添う重要性を訴えた。

講演会は「下野新聞認知症カフェプロジェクト」の一環。NPO法人「風の詩」(佐野市)の永島徹理事(佐野市)の永島徹理事長が聞き手となり、約120人が耳を傾けた。

(須藤健人)



講演する那須赤十字病院の伊藤脳神経内科部長＝24日午後、宇都宮市宿郷5丁目

令和6年11月25日(月)の下野新聞に
脳神経内科部長 伊藤 雅史先生の記事が掲載されました。